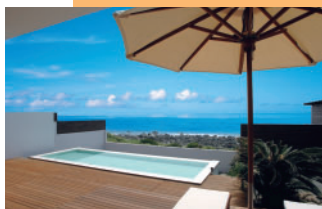




第106期 近況報告

2006年4月1日～2006年9月30日



11月28日(火) オープン



平成18年11月4日現在

CONTENTS

ごあいさつ	1
事業別概況(連結)	2
中間連結財務諸表	4
中間単独財務諸表	6
ニュース & トピックス	8
株主の方へのお知らせ	10
会社概況・株式情報	12
株主優待のご案内・株主メモ	13



株主のみなさまには、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、当社事業に対し、格別のご支援を賜りまして誠にありがとうございます。

心から感謝申し上げます。

当中間期におけるわが国経済は、原油価格の高騰等の懸念材料があるものの、企業収益の改善を背景に設備投資や個人消費が増加し、景気は緩やかに回復してまいりました。

このような状況のもと、当社グループは、レジャー・サービス部門において富士急ハイランドに、超大型ローラーコースター「ええじゃないか」を導入するとともに、熱海市初島にアジアリゾートをテーマとした新施設「R-Asia (アール・エイジア)」をオープンさせるなど、独自性の高い施設・商品の導入を図り、増収に努めました。

また、運輸部門では高速バスにおいて、7月に「沼津～渋谷・新宿線」を新規開設し事業エリアの拡大と積極的な営業活動に努めました。これらの結果、当中間期の連結売上高は231億55百万円（前年同期比3.7%増）、経常利益は26億74百万円（同5.7%増）、中間純利益は15億10百万円（同9.6%増）となりました。

下期におきましては、景気は回復基調にあるものの、金利上昇リスクや原油価格の高止まりなど、当社を取り巻く事業環境は引き続き厳しい状況が続くものと思われまます。

このような状況の中、当社グループはレジャー・サービス部門において、11月に「ふじやま温泉」を新規オープンするなど、オリジナリティ溢れる施設・サービスを提供し、業績の向上に努めてまいります。

また、運輸部門では鉄道事業において、地元観光イベントとの連携により、首都圏からの旅客誘致に努めるとともに、更なる安全対策の充実を図ってまいります。

今後とも当社グループは、アメニティ（夢・喜び・快適・やすらぎ・感動）ビジネスを戦略事業領域とし、この強化・拡充を図り、「富士急」ブランドの更なる価値の極大化を目指すとともに、キャッシュ・フローと資産効率を重視し財務体質の強化を推進し、引き続き株主重視の経営に努めてまいります。

当社グループは本年9月に迎えました創立80周年を機に、地元への社会貢献活動と富士山を中心とした自然保護活動により一層取り組むとともに、安全を全てに優先し120%の安全の遂行と、コンプライアンスを重視した経営により、引き続き企業の社会的責任を果たしてまいります。

株主のみなさまには、なお一層のご支援、ご指導を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成18年11月

代表取締役社長 堀内 光一郎

事業別概況 (連結)

運輸部門

主力のバス事業のうち乗合バス営業においては、継続して不採算路線の見直しなど効率的な運行に取り組んでおります。また、平成16年10月から初めて東京都区内で乗合バス事業に参入した港区内でのコミュニティバス「ちいばす」は、地域交通サービスとしての認知を高め、利用者も増加しております。

高速バス営業は、昨年度、開設した路線の増収や当社としては渋谷への初めての乗入れとなる「沼津～渋谷・新宿線」を新たに開設するなどにより、営業基盤の拡充と増収に努めました。

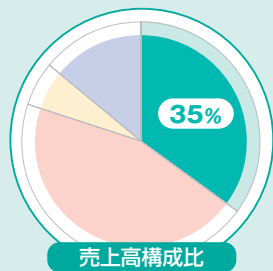
貸切バス営業においては、「富士急」ブランドによるトータルセールスの強化や効率的な車両運用に努めるとともに、夏期大型コンサート（サウンドコニファー229）などの各種イベント輸送の受注に積極的に取り組みました。

また、7月には、創立80周年記念事業として、富士山周辺の観光の“玄関口”である富士急行線・河口湖駅をリニューアルオープンし、地域の利便性向上に取り組みました。

この結果、鉄道、ハイヤー・タクシーなどの各事業の増収も寄与し、運輸部門全体の売上高は88億19百万円（前年同期比2.0%増）、営業利益は主要コストである軽油費の高騰もありましたが8億13百万円（前年同期比2.4%減）となりました。

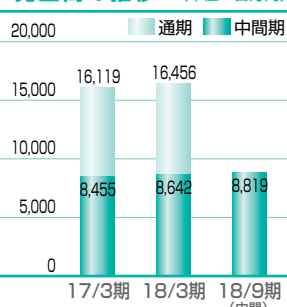


新型バス車両



河口湖駅

売上高の推移 (単位: 百万円)



不動産部門

不動産販売事業においては、エリア戦略に基づき、山中湖畔別荘地において建築デザイナーやハウスメーカーとのコラボレーションにより、付加価値の高いライフスタイル提案型商品の販売に取り組んでおります。また、7月には、山中湖畔別荘地内の旭日丘地区に「森の駅 旭日丘」をオープンさせ、リゾートコンシェルジュ機能を設置し、新しいリゾートライフの提案などにより別荘顧客の満足度向上に取り組んでおります。

不動産賃貸業においては、富士吉田富士急ターミナルビルが「Q-STATION」としてリニューアルオープンするなど社有地の活用を推進しました。

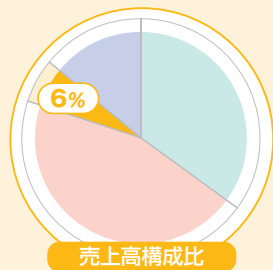
この結果、不動産部門の売上高は13億94百万円（前年同期比0.2%減）、営業利益は3億63百万円（前年同期比10.1%減）となりました。



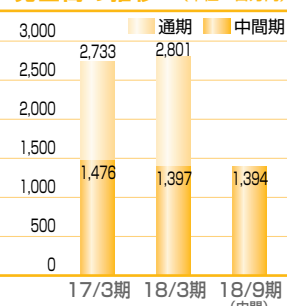
マウントビューヒル山中湖



ガレージハウス山中湖



売上高の推移 (単位: 百万円)



レジャー・サービス部門

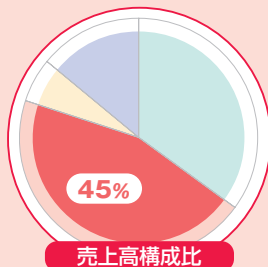
主力の遊園地事業につきましては、富士急ハイランドにおいて、7月に、総回転数世界一(ギネス世界記録認定)のローラーコースター「ええじゃないか」を導入し、好評を博しました。また、夏期大型イベントとして「サウンドコニファー229」を開催するなど、時節に応じた各種企画催事をきめ細かく行い増収に努めました。

富士南麓の遊園地「Grinpa(ぐりんぱ)」では、7月に、「フライングウルトラマン☆シュワッチ」を新たに導入したほか、シルバニアファミリーゾーンでは企画催事の充実などにより、利用客の増加に努めました。

ホテル部門では、ホテルハイランドリゾートにおいて、新規アトラクション「ええじゃないか」の導入に合わせ、富士急ハイランドのオフィシャルホテルとして優先入園ができるプランの販売を強化するとともに、7月には、雄大な富士が望める新チャペル「聖コニファーチャペル」を新設するなど、増収に努めました。また、ホテルマウント富士では、7月より、ペットホテルを新たに設置し、需要の喚起に努めました。

その他のレジャー部門では、4月から、指定管理者制度により公共施設の運営受託を開始いたしました。また、熱海港から高速観光船で所要時間わずか25分の初島にアジアリゾートをテーマにした「R-Asia(アール・エイジア)」をオープンいたしました。

この結果、レジャー・サービス部門全体の売上高は112億45百万円(前年同期比7.1%増)、営業利益は19億36百万円(前年同期比17.0%増)となりました。

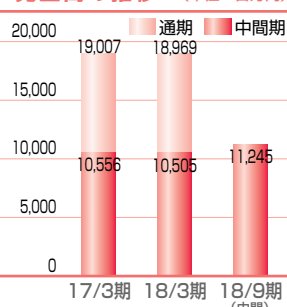


ええじゃないか



R-Asia

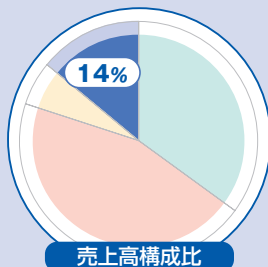
売上高の推移 (単位: 百万円)



その他部門

建設業では、民間工事の受注が増えたことなどにより増収となりました。百貨店業では、富士吉田富士急ターミナルビルが「Q-STAY」としてリニューアルオープンいたしました。

この結果、売上高は34億64百万円(前年同期比25.2%増)、営業利益は8百万円(前年同期比88.8%減)となりました。

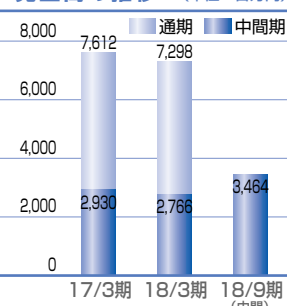


Q-STAY



富士ミネラルウォーター

売上高の推移 (単位: 百万円)



中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表（要旨）

単位：百万円

科 目	当中間連結会計期間末 (平成18年9月30日現在)	前中間連結会計期間末 (平成17年9月30日現在)	前連結会計年度 (平成18年3月31日現在)
(資産の部)			
流動資産	27,689	28,013	24,139
現金及び預金	10,484	10,495	6,954
受取手形及び売掛金	2,247	1,997	2,732
たな卸資産	13,667	14,073	13,355
その他の	1,290	1,447	1,096
固定資産	61,919	57,734	60,291
有形固定資産	52,021	49,021	50,132
建物及び構築物	27,406	26,644	26,581
機械装置及び運搬具	8,981	7,308	6,989
土地	13,468	12,811	13,305
建設仮勘定	439	434	1,539
その他の	1,726	1,822	1,716
無形固定資産	2,980	2,963	2,907
投資その他の資産	6,917	5,749	7,251
投資有価証券	5,198	3,702	5,465
その他の	1,719	2,046	1,786
資産合計	89,609	85,747	84,430

科 目	当中間連結会計期間末 (平成18年9月30日現在)	前中間連結会計期間末 (平成17年9月30日現在)	前連結会計年度 (平成18年3月31日現在)
(負債の部)			
流動負債	24,610	23,272	21,374
支払手形及び買掛金	2,305	2,040	2,843
短期借入金	15,860	15,979	14,322
賞与引当金	502	511	518
その他	5,941	4,741	3,690
固定負債	49,812	48,877	48,912
長期借入金	43,284	42,646	42,289
退職給付引当金	1,574	1,459	1,651
その他	4,954	4,771	4,970
負債合計	74,423	72,149	70,286
(少数株主持分)			
少数株主持分	—	279	281
(資本の部)			
資本金	—	9,126	9,126
資本剰余金	—	3,332	3,322
利益剰余金	—	2,436	2,583
その他有価証券評価差額金	—	568	801
自己株式	—	△ 2,145	△ 1,970
資本合計	—	13,318	13,862
負債、少数株主持分及び資本合計	—	85,747	84,430
(純資産の部)			
株主資本	14,355	—	—
資本金	9,126	—	—
資本剰余金	3,335	—	—
利益剰余金	3,533	—	—
自己株式	△ 1,640	—	—
評価・換算差額等	535	—	—
その他有価証券評価差額金	535	—	—
少数株主持分	295	—	—
純資産合計	15,186	—	—
負債・純資産合計	89,609	—	—

中間連結損益計算書（要旨）

単位：百万円

科 目	当中間連結会計期間	前中間連結会計期間	前連結会計年度
	(平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	(平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	(平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)
営業収益	23,155	22,326	43,342
営業費	20,053	19,377	39,355
営業利益	3,102	2,949	3,986
営業外収益	183	199	319
営業外費用	610	618	1,200
経常利益	2,674	2,529	3,106
特別利益	4	16	980
特別損失	150	190	1,228
税金等調整前中間(当期)純利益	2,529	2,356	2,858
法人税、住民税及び事業税	982	909	809
法人税等調整額	15	37	469
少数株主利益	20	29	52
中間(当期)純利益	1,510	1,378	1,525

中間連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

単位：百万円

科 目	当中間連結会計期間	前中間連結会計期間	前連結会計年度
	(平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	(平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	(平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,921	3,898	5,128
税金等調整前中間(当期)純利益	2,529	2,356	2,858
減価償却費	1,750	1,742	3,456
その他損益等調整額	560	560	914
資産・負債の増減額	108	233	△ 154
小計	4,948	4,892	7,074
利息の支払額等	△ 1,027	△ 994	△ 1,945
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,760	△ 1,877	△ 4,745
有形固定資産の取得による支出	△ 3,453	△ 2,082	△ 5,062
その他	693	204	316
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,367	△ 909	△ 2,785
借入金の増減額	2,533	△ 263	△ 2,277
その他	△ 165	△ 645	△ 508
現金及び現金同等物の増減額	3,528	1,111	△ 2,401
現金及び現金同等物の期首残高	6,798	9,200	9,200
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	10,327	10,311	6,798

中間連結株主資本等変動計算書

単位：百万円

当中間連結会計期間（平成18年4月1日から平成18年9月30日まで）

	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計			
平成18年3月31日 残高	9,126	3,322	2,583	△ 1,970	13,061	801	281	14,143
中間連結会計期間中の変動額								
剰余金の配当			△ 523		△ 523			△ 523
役員賞与			△ 36		△ 36			△ 36
中間純利益			1,510		1,510			1,510
自己株式の取得				△ 4	△ 4			△ 4
自己株式の処分		13		334	347			347
株主資本以外の項目の中間連結会計 期間中の変動額（純額）						△ 265	14	△ 251
中間連結会計期間中の変動額合計	—	13	950	329	1,293	△ 265	14	1,042
平成18年9月30日 残高	9,126	3,335	3,533	△ 1,640	14,355	535	295	15,186

中間単独財務諸表

中間単独貸借対照表（要旨）

単位：百万円

科 目	第106期中間期 (平成18年9月30日現在)	第105期中間期 (平成17年9月30日現在)	第105期 (平成18年3月31日現在)
(資産の部)			
流動資産	23,262	22,672	19,006
現金及び預金	8,276	7,534	4,635
未収運賃	875	817	622
未収金	557	435	531
たな卸資産	12,305	12,712	12,277
その他の流動資産	1,252	1,179	944
貸倒引当金	△ 5	△ 8	△ 4
固定資産	56,429	53,022	55,765
鉄道事業固定資産	2,883	2,567	2,689
自動車事業固定資産	3,276	3,225	3,153
観光事業固定資産	28,247	25,424	25,575
土地建物事業固定資産	10,098	9,689	10,173
各事業関連固定資産	2,290	2,336	2,306
その他の固定資産	417	429	423
建設仮勘定	433	372	1,446
投資その他の資産	8,780	8,977	9,996
投資有価証券	5,328	3,946	5,642
長期貸付金	2,917	4,155	3,785
その他の投資等	697	963	731
貸倒引当金	△ 162	△ 89	△ 162
資産合計	79,691	75,695	74,771

科 目	第106期中間期 (平成18年9月30日現在)	第105期中間期 (平成17年9月30日現在)	第105期 (平成18年3月31日現在)
(負債の部)			
流動負債	17,859	15,519	14,389
短期借入金	12,141	11,533	10,751
未払金	2,787	1,427	1,797
賞与引当金	79	83	88
その他の流動負債	2,851	2,475	1,752
固定負債	45,229	43,702	44,007
長期借入金	40,965	39,866	39,598
退職給付引当金	179	—	213
預り保証金	3,658	3,835	3,617
その他	426	—	578
負債合計	63,088	59,221	58,397
(資本の部)			
資本金	—	9,126	9,126
資本剰余金	—	3,398	3,398
利益剰余金	—	4,217	3,947
株式等評価差額金	—	519	722
自己株式	—	△ 787	△ 820
資本合計	—	16,473	16,374
負債・資本合計	—	75,695	74,771
(純資産の部)			
株主資本	16,127	—	—
資本金	9,126	—	—
資本剰余金	3,398	—	—
利益剰余金	4,425	—	—
自己株式	△ 823	—	—
評価・換算差額等	475	—	—
その他有価証券評価差額金	475	—	—
純資産合計	16,602	—	—
負債・純資産合計	79,691	—	—

中間単独損益計算書（要旨）

単位：百万円

科 目	第106期中間期	第105期中間期	第105期
	(平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	(平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	(平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)
鉄 道 事 業			
営業収益	682	658	1,194
営業費用	548	557	1,147
営業利益	133	100	47
自 動 車 事 業			
営業収益	1,517	1,512	2,823
営業費用	1,194	1,178	2,254
営業利益	323	334	569
観 光 事 業			
営業収益	9,221	8,858	15,744
営業費用	7,655	7,477	14,307
営業利益	1,566	1,381	1,437
土 地 建 物 事 業			
営業収益	1,073	1,082	2,202
営業費用	730	677	1,457
営業利益	343	405	745
全 事 業 営 業 利 益	2,366	2,221	2,799

科 目	第106期中間期	第105期中間期	第105期
	(平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	(平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	(平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)
営 業 外 収 益	81	124	183
営 業 外 費 用	546	507	1,016
経 常 利 益	1,901	1,838	1,965
特 別 利 益	—	10	885
特 別 損 失	141	184	1,200
税引前中間(当期)純利益	1,760	1,664	1,651
法人税、住民税及び事業税	719	682	548
法 人 税 等 調 整 額	△ 5	1	390
中 間 (当 期) 純 利 益	1,046	980	711
前 期 繰 越 利 益	—	1,056	1,056
中 間 (当 期) 未 処 分 利 益	—	2,037	1,768

中間株主資本等変動計算書

単位：百万円

第106期中間期（平成18年4月1日から平成18年9月30日まで）

	株主資本										評価・換算 差額等	純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金			
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金							利益剰余金 合計
						別途 積立金	繰越利益 剰余金						
平成18年3月31日 残高	9,126	2,398	999	3,398	1,959	219	1,768	3,947	△ 820	15,651	722	16,374	
中間会計期間中の変動額													
剰余金の配当							△ 538	△ 538		△ 538		△ 538	
役員賞与							△ 30	△ 30		△ 30		△ 30	
中間純利益							1,046	1,046		1,046		1,046	
自己株式の取得									△ 4	△ 4		△ 4	
自己株式の処分			0	0					1	1		1	
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額(純額)											△ 246	△ 246	
中間会計期間中の変動額合計	—	—	0	0	—	—	478	478	△ 2	475	△ 246	228	
平成18年9月30日 残高	9,126	2,398	1,000	3,398	1,959	219	2,246	4,425	△ 823	16,127	475	16,602	

富士急ハイランド・ホテルハイランドリゾートエリア内に「ふじやま温泉」がオープン

11月28日、富士急ハイランド・ホテルハイランドリゾートエリア内に、温泉施設「ふじやま温泉」がオープンします。「伝統的な和のやすらぎ空間」をコンセプトにした建物で、富士山を目の前にした絶好のロケーションが魅力です。



富士急ハイランドに「ええじゃないか」が誕生

7月19日、富士急ハイランドに超大型ローラーコースター「ええじゃないか」が誕生しました。走りながら座席が回転し、コースのループやひねりを加えた総回転数14回がギネス世界記録にも認定されました。



熱海市“初島”に「R-Asia(アール・エイジア)」がオープン

7月29日、熱海市“初島”に「アジアリゾート」をテーマとした新しいリゾートエリア「R-Asia」がオープンしました。「タラソスパ〜島の湯〜」「アジアンガーデン」「ガーデンキャンプサイト」「海のプール」で構成され、眼前に広がる海原を眺めながらリラックスした時を過ごせる恵まれた環境が特色です。



富士急行線・河口湖駅がリニューアルオープン

7月、富士急行線・河口湖駅がリニューアルオープンしました。

駅舎外観は、木のぬくもりが感じられるレトロな雰囲気となっており、駅舎内には富士五湖周辺の特徴あるお土産が買えるショップやインターネットで観光情報が収集できるカフェがあり、富士五湖エリアの“ゲートウェイ”としての機能も兼ね備えています。



富士急行線に「マッターホルン・ゴッタード鉄道」カラーの車両を運行

当社は9月19日、スイスのマッターホルン・ゴッタード鉄道との姉妹鉄道提携15周年および富士急行会社創立80周年を記念し、富士急行線において車両2台による1編成を、マッターホルン・ゴッタード鉄道の車両と同じ赤と白を基調としたデザインに塗り替え、運行を開始いたしました。車内にはスイスの名峰マッターホルンの写真が展示され、利用者から好評をいただいております。



創立80周年記念事業「富士山総登山」を実施

富士急グループでは8月18日、19日の1泊2日の行程で、創立80周年記念事業として従業員による「富士山総登山」を実施し、下山道を中心に清掃活動を行いました。従業員による富士山総登山は、昭和39年の第1回以来今回で7回目となり、これまで延べ約1万6千人が参加いたしました。

今後とも富士急グループでは、創業精神である「富士を世界に拓く」のもと、富士山の環境保全活動への取り組みなどを通じ、社会貢献活動にも積極的に取り組んでまいります。



ホテルハイランドリゾート隣接 純和風日帰り天然温泉

2006. **11.28**(火) **オープン**

伝統的な“和の安らぎ空間”の中で富士と向き合い天然温泉にゆったりと浸かる至福

伝統工芸で飛騨高山の“町屋造り”を再現

日本最大の“純木造浴室”

充実の休憩スペースと「女性専用フロア」

〈アクセス〉

- 車 ・ 新宿から中央自動車道で約80分、河口湖ICに隣接
・ 東京から東名高速道路・御殿場IC、東富士五湖道路経由で約90分
- 新宿駅/東京駅から高速バス有り、富士急ハイランド下車徒歩3分
- 電車・JR中央本線大月駅で富士急行線に乗換、富士急ハイランド駅下車徒歩15分

www.fujiyamaonsen.jp

tel.0555-22-1126

 **ふじやま温泉**

〒403-0017 山梨県富士吉田市新西原4丁目1524番地



Fujikyū group Highway bus

富士急グループ高速バス

富士急が贈るとっておきのバスの旅



©財団法人東京観光財団

新宿線

■富士五湖発着
河口湖駅・富士急ハイランド…1,700円
予約先 0555-72-5111

■諏訪岡谷発着
岡谷駅…3,060円
予約先 055-237-0135

■甲府発着
甲府駅…1,950円
予約先 055-237-0135

■沼津発着
沼津駅北口…2,100円
千福下…1,800円
予約先 055-921-5367 ■<http://www.highwaybus.com>



©財団法人東京観光財団

東京線

■富士五湖・御殿場発着
河口湖駅・富士急ハイランド…1,700円
富士急御殿場車庫…1,500円
予約先 0555-72-2922

■沼津発着
沼津駅北口…2,100円
千福下…1,800円
予約先 055-929-1144

■富士宮発着/富士宮駅…2,500円
予約先 0545-71-2660

■<http://www.j-bus.co.jp>



横浜線

■富士五湖・御殿場発着
河口湖駅・富士急ハイランド…2,000円
富士急御殿場車庫…1,600円
予約先 0555-72-2922

■<http://www.j-bus.co.jp>

※季節限定で運行しております。

- 富士山五合目～京都・大阪線
- 富士五湖～静岡線
- 富士五湖～川越・大宮線
- 富士五湖～所沢・大宮線
- 富士五湖～名古屋線
- 富士山五合目～静岡線
- 富士山五合目～新松田線



京都・大阪線

■富士五湖・静岡東部発着
河口湖駅・富士急ハイランド～大阪…8,500円
河口湖駅・富士急ハイランド～京都…8,000円
沼津駅～大阪…7,600円
沼津駅～京都…7,100円
予約先 0555-72-2922

■<http://www.j-bus.co.jp>



写真提供:成田国際空港株式会社

成田空港線

■静岡東部発着
新富士駅…5,000円/沼津駅…4,500円
予約先 0545-71-2660 ■<http://www.j-bus.co.jp>

■松田・小田原発着
松田…4,000円/小田原…3,800円
予約先 0465-82-1362 ■<http://www.j-bus.co.jp>

富士急行

URL <http://www.fujikyū.co.jp> ☎0555-22-7100

会社概況

会社概要 (平成18年9月30日現在)

商号 富士急行株式会社
FUJI KYUKO CO., LTD.
所在地 本社：山梨県富士吉田市新西原五丁目2番1号
東京本社：東京都渋谷区初台一丁目55番7号
設立 大正15（1926）年9月18日
資本金 91億2,634万円
代表者 代表取締役社長 堀内光一郎
主要事業 鉄道事業、自動車運送事業、
土地建物の売買・貸借・媒介その他各種不動産事業、
旅館業・遊園地その他各種観光事業等

役員 (平成18年9月30日現在)

取締役会長 (代表取締役)	堀内光雄	取締役	尾崎護
取締役社長 (代表取締役)	堀内光一郎	取締役	梶原孝範
専務取締役	帆足雅晴	取締役	小石川二比古
専務取締役	澤辺正恭	取締役	福重隆一
常務取締役	清水守	取締役	小林正幸
常務取締役	堀内哲夫	常勤監査役	矢野勝
取締役	林有厚	監査役	和光泰
取締役	宇野郁夫	監査役	堀田力
取締役	秋山智史	監査役	吉良信一
取締役	藤田讓	監査役	岡本和也

連結子会社の状況 (平成18年9月30日現在)

■運輸部門

岳南鉄道(株)
富士急行観光(株)
富士急平和観光(株)
富士急山梨バス(株)
富士急シティバス(株)
富士急静岡バス(株)
(株)フジエクスプレス
富士急湘南バス(株)

富士急オートサービス(株)
(株)静岡ホールディング
富士急伊豆タクシー(株)
富士急山梨ハイヤー(株)
(株)富士急マリンリゾート
他5社

■不動産部門

(株)富士急リゾートアメニティ
他1社

■レジャー・サービス部門

(株)富士急ハイランド
(株)フジヤマリゾート
(株)富士宮富士急ホテル
ハイランドリゾート(株)
表富士観光(株)
富士急安達太良観光(株)
富士観光興業(株)
表富士グリーン観光(株)
富士急トラベル(株)
(株)ピカ
他1社

■その他部門

(株)富士急百貨店
富士急建設(株)
(株)富士急情報システム
富士ミネラルウォーター(株)
(株)ネプチューン
他4社

株式情報

株式の状況 (平成18年9月30日現在)

発行可能株式総数 331,695,000株
発行済株式総数 109,769,477株
株主数 5,609名

単元未満株式の買取および買増制度のご案内

- ・単元未満株式の**買取制度**
株主様がお持ちになっている単元未満株式を、当社が市場価格にて買取させていただく制度です。
- ・単元未満株式の**買増制度**
株主様がお持ちになっている単元未満株式と合わせて1単元(1,000株)となるような株式を、当社が市場価格にて株主様に売却する制度です。

当社の株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社の本店および全国各支店、野村證券株式会社全国本支店にて受付けております。また株券保管振替制度をご利用の株主様は、株券を預託された証券会社へお申し出下さい。

〈単元未満株式の買取および買増制度に関するお問い合わせ先〉

〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
フリーダイヤル 0120-707-696
0120-86-4490 (24時間自動音声応答)

大株主 (平成18年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
財団法人堀内浩庵会	12,912	11.76
株式会社エフ・ジェイ	12,708	11.58
日本生命保険相互会社	10,709	9.76
富国生命保険相互会社	10,700	9.75
朝日生命保険相互会社	7,650	6.97
株式会社東京ドーム	3,052	2.78
みずほ信託退職給付信託スルガ銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託	2,555	2.33
株式会社山梨中央銀行	2,473	2.25
富士急行株式会社(自己株口)	2,081	1.90
日野自動車株式会社	2,006	1.83

株主優待のご案内

電車・バス・観光施設共通優待券（半期）

ご所有株式数	ご優待の内容	枚数
1,000株以上	電車全線乗車(1枚につき1名乗車) バス全線乗車(1枚につき1名乗車) 富士急ハイランド入園(1枚につき1名入園、5枚につきフリーパス1枚と引換) ぐりんぱ入園(1枚につき1名入園、5枚につきフリーパス1枚と引換) スノータウン「Yeti」(5枚につき1日券1枚と引換)	7枚
3,000株以上	あだたら高原スキー場(5枚につき1日リフト券又は Gondola 往復券1枚と引換) R-Asia(アール・エイジア)入園(1枚につき1名入園)	10枚
5,000株以上	天上山公園カチカチ山ロープウェイ(1枚につき1名乗車(往復)) 河口湖遊覧船(1枚につき1名乗船)・山中湖遊覧船(1枚につき1名乗船)・本栖湖遊覧船(1枚につき1名乗船)	15枚
10,000株以上	初島航路(1枚につき1名乗船(片道))	25枚
20,000株以上	フジヤマミュージアム(1枚につき1名入館) ふじやま温泉(2枚につき大人1名入館、1枚につき小人1名入館)	40枚

フリーパス引換券（半期）

ご所有株式数	ご優待の内容	枚数
1,000株以上		1枚
3,000株以上		2枚
5,000株以上	遊園地フリーパス(富士急ハイランド・ぐりんぱ)	3枚
10,000株以上	スキー場一日券(スノータウン「Yeti」・あだたら高原スキー場)	4枚
20,000株以上		5枚
35,000株以上		6枚

施設割引券（半期）

ご所有株式数	ご優待の内容	枚数	
1,000株以上	ホテルハイランドリゾート	1枚につき1室室料20%又は自社企画宿泊商品10%割引	2枚
	ホテルマウント富士		2枚
	富士急グループホテル プール割引券	ハイランドリゾート・マウント富士 20%割引(1枚につき4名まで)	2枚
	あだたら高原富士急ホテル	3ホテル共通1枚につき1室室料20%又は自社企画宿泊商品10%割引	2枚
	富士宮富士急ホテル		
	甲府イーストサイドホテル		
	富士急グループホテル 飲食割引券	レストラン・バー、食事付入浴 10%割引(1枚につき4名まで)	5枚
	富士ゴルフコース	バック料金から2,000円割引(1枚につき4名まで)	1枚
	ゴルフパーク「Bandi」		
	大富士ゴルフ場		
	ふじやま温泉	入館料 平日 大人750円 小人400円 土休日 大人1,000円 小人500円 (1枚につき4名まで)	2枚
	PICA・キャンピカ富士ぐりんぱ	1枚につき1泊1室10%割引	2枚
	富士ミネラルウォーター	1枚につき20%割引(1ヶ庫以上)	1枚
	富士急トラベル	パッケージ旅行代金の5%割引(1枚につき4名まで)	2枚
	富士急ハイランドボウリング場	1ゲーム350円(1枚につき4名まで)	2枚
富士急オートサービス	車検・点検・整備 工賃10%割引	1枚	

新設 長期保有特別優待券（3年継続保有毎）

ご所有株式数	ご優待の内容	枚数
10,000株以上	「ホテルハイランドリゾート」「ホテルマウント富士」の指定するツインルーム室料100%又はホテル内レストラン利用料30%割引券	2枚
35,000株以上		3枚

注)対象となる方は、過去3年間すべての基準日において、1万株以上又は3万5千株以上を継続して保有し、かつ株主番号又は氏名・住所が継続して同一である株主様に限り、証券保管振替機構をご利用になる際など、株主番号が変更になる場合には、登録する氏名の新字体と旧字体の違いなどにもご注意ください。
注)12月31日、1月1日、5月3・4日、旧盆(8/12～15)のご宿泊にはご利用いただけません。レストラン利用料の割引額の上限は3万円といたします。

高速バス乗車券（半期）

ご所有株式数	ご優待の内容	枚数
5,000株以上	高速バス乗車券	1枚
10,000株以上		2枚
20,000株以上		4枚

注)高速バス乗車券は、中央高速バス富士五湖線・甲府線および東名高速バス東京駅～河口湖線の当社便に限りご利用いただけます。

電車・バス全線優待パス（半期）

ご所有株式数	ご優待の内容	枚数
35,000株以上	電車・バス全線優待パス(表示された持参人1名)	1枚

各種株主優待券の発行時期および有効期間

	発行時期	有効期間
3月31日現在の株主様	5月	6月1日～11月30日
9月30日現在の株主様	11月	12月1日～5月31日

※各種株主優待券は毎年3月31日および9月30日の最終の株主名簿・実質株主名簿に記載された1,000株以上ご所有の株主様に送付いたします。
※長期保有特別優待券の有効期間に限り、「1年間」といたします。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(電話問合せ)
郵便物送付先 〒171-8508
東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
Tel.0120-707-696 (フリーダイヤル)

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店

公告方法 東京都において発行する日本経済新聞に掲載



富士急行株式会社

本社 山梨県富士吉田市新西原五丁目2番1号
東京本社 東京都渋谷区初台一丁目55番7号
<http://www.fujikyū.co.jp/>

